

藝文いちかわ

市川市芸術文化団体協議会は、市内における各種芸術文化団体相互の協力と理解を深めるとともに、市川市の芸術文化の振興に寄与することを目的とする。

ご挨拶

市川市芸術文化団体協議会名誉会長

市川市長 田中 甲



市川市芸術文化団体協議会の能村会長をはじめ会員の皆様におかれましては、長年にわたり本市の文化芸術の振興に多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年9月に開催されました「第32回芸術文化集会」では「夢」をテーマに、ステージ発表や展示のほか、葛飾八幡宮のご協力による神楽殿での特別公演など、多彩な催しが行われました。会場である全日警ホールにとどまらず地域全体へと広がりをもちますなど、創意工夫を凝らした活動を展開される皆様の、「市川市から文化芸術をもっと発信していこう」という熱意に、深く敬意を表します。

また、本市が中・長期プランとして掲げる「市川市文化振興ビジョン」(平成15年3月策定)が改訂の年を迎えるにあたり、協議会の皆様が「文化芸術都市に向けての文化団体の果たす役割」をテーマにパネルディスカッションを開催されたことは、今後の文化振興にとって大変意義深いものでした。文化芸術を愛する皆様が、文化都市市川の未来を見据え活発に議論を重ねてくださったことに、心より感謝申し上げます。

一方で、高齢化や担い手不足といった課題も避けては通れません。長年にわたり文化活動を牽引してこられた皆様に改めて敬意を表し、その志と活動の基盤を次世代へ確実に引き継ぐため、皆様と力を合わせて取り組んでまいりますので、今後ともお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結ぶに、市川市芸術文化団体協議会のさらなるご発展と、皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。

また、今年も二月にはアイリッシュタウン展望施設で行われる「天空の文化祭」で、公演と展示が予定されております。この施設は多くの市民の方はもとより市外からも多くの方が訪れる施設でもあり、私たちの活動を多くの方々知っていただく絶好の機会でもあります。また、九月には八幡市民会館において第33回芸術文化集会が開催されます。

ご挨拶

市川市芸術文化団体協議会

会長 能村 研三



私たちの加盟団体の活動は、それぞれが、時代の流れの中で常に新しさを求めて活動を続けておりますが、芸文協という枠の中で、他の団体との連携した活動が大きな効果を上げています。自らの団体の中の活動に埋没してしまうと、どうしてもマンネリ化したものになってしまいますが、他の団体とのコラボした活動をする事によって新しい切口を発見し、今までにはなかった新しいものが生み出すことにもなります。文化芸術を通じて様々な関わりが生まれます。

演奏や制作などを行うことで「活動者」は作品を提供し、「鑑賞者」はその作品を見たり、聴いたり、味わったりすることで活動者の発表を支えます。また、これまで自ら積極的に文化芸術活動に関わりが無かった方も、活動団体が参加するイベントに足を運び、または地域の取組を見守ることで、これまで「関心がうすい市民」も含めて、相互に文化芸術を支え合う《市民の輪》が広がっていくのではないかと思います。



文化集会特集です

第32回芸術文化集会

総合プロデューサー 稲葉 健二

第32回芸術文化集会を開催することができました。

芸文協の加盟団体の発表だけでなく、芸術文化に関わる団体の方をお招きしてのパネルディスカッションの開催。特別公演として、葛飾八幡宮神楽殿をお借りして、初めての「神楽殿公演」を開催することが出来ました。また、前年行われた50周年事業を振り返り、記念誌の展示、閲覧に加えて記念事業の展示・公演をスライドで紹介致しました。

文化芸術は、市民が誰でも参加し、楽しみながら裾野を拡げるものであります。その拡げる核になり、牽引していくのが芸文協であると自負しています。多くの市民の方や団体が協力して前に進めていくことが大切であります。個人の価値観だけで捉えるのではなく、大観的に老若男女を問わず、技量の差も問わずに一緒に進めるべきです。

芸文協はいろいろな芸術文化の集まりです。この輪が多くの団体と一緒に拡がり、コラボして市川市の芸術文化を押し上げていく一つのステージが、芸術文化集会であると思っています。

第32回芸術文化集会をふりかえって

展示部門担当 町山 公孝

恒例により、展示場所を、第2展示室と文化の広場とにわけて展示を行った。参加団体は市川市花道協会、市川市俳句協会、宗左近・蕊の会、の3団体。

文化の広場では、前半を市川市俳句協会、後半を市川市花道協会とで分担し

て展示を行った。市川市俳句協会は、今回の文化集会のテーマである「夢」を兼題とし、役員の俳句作品を短冊として展示した。市川市花道協会は会員の花道作品を展示した。

第2展示室では、市川市俳句協会と宗左近・蕊の会とがコラボして「里見公園に行こう」というコンセプトのもとに、里見公園マップを沢山用意した。そして里見公園にある宗左近の詩碑、伊藤白潮句碑、今年新たに建立された能村研三句碑の紹介パネルを展示した。

今回は展示参加団体が少なく、第2展示室にゆとりができたので、昨年行われた「50周年記念事業」の記録映像を終日上映した。

それぞれの団体の主な行事は他に行われ、関心ある関係者の集まりとして行われているが、芸文協の文化集会は、一般市民の皆様にも、市川市芸術文化団体の文化芸術活動を紹介して、市川市の文化活動の啓蒙を図るのが趣旨であるとすれば、不参加団体があつたのは残念なことであつた。

第32回芸術文化集会をふりかえって

公演部門担当 篠田 要衛

今回の文化集会公演部門は6団体から11団体参加され、日頃の活動の成果と今まで積み重ねられてきた技量を発表されました。

装道礼法きもの学院は、私達が日頃接する機会の少ない着物についての成り立ちや帯の花結びなど、今まであまり知らなかったことを判りやすく解説され、会場の皆さんも納得顔でした。そして、今回から芸文協に入会され初めての文化集会に参加された市川市邦楽連盟は、日本の伝統芸能であり、国の重要無形文化財である長唄を一般の市民の方々に浸透される活動を行っています。その一環として、今回の文化集会では小・中学生の方々に三味線体験教室を通

しての活動で、三味線の「千本桜」を発表して頂きました。市川市芸能協会は、光江会「かつぼれ」と「カラオケ連合会」によるお得意の技と喉を披露して下さいました。市川オペラ振興会はオペラアリアから歌曲まで、幅広い曲をプロ歌声で披露していただき、会場の皆さんも心落ち着いた気持ちで聴き入っていらつしやいました。市川市合唱連盟のステージでは、2つの合唱団がそれぞれ異なった趣きの合唱曲を、人の声によるハーモニーとしてお客様にお届けしました。最後のステージの市川市洋舞踊協会は、4つの団体で、いろいろなジャンルの舞踊を披露されました。

今年も出演団体のご協力をいただき、スムーズに、そしていろいろな催しものを、お届けできたことは大変良かったと思えます。

第32回芸術文化集会をふりかえって

パネルディスカッション

芸文協副会長 酒井 玄枝

テーマ「文化芸術都市に向けて、文化団体の果たす役割」
パネラー 山本 俊哉氏(日本都市計画家協会会長)
上野 真由美氏(流山市文化協会会長)
能村 研三氏(市川市芸術文化団体協議会会長)

市川市芸術文化団体協議会は一昨年、五十周年の記念事業を終え、今一度活動を見直し文化芸術活動の中核団体としてのあり方を考えてみようと思画された。

戦後まもなく藤野天功・村上正治・内田一油各氏によって市川市の文化運動がスタート、芸術文化団体誕生の基となり現在に至っている。文化都市と言われる市川市は市民による文化が盛んで、経済人の龍島政次氏、詩人の宗左近氏、真間山弘法寺の酒井日慈氏、月刊いちかわ編集長吉清英夫氏などが中心となり市民運動を牽引し市民文化賞、月見の会、観桜会、夜の虹賞などが市民文化として広がっていき現在に至って

いる。今回のパネルディスカッションは、一般の市民参加者、行政担当者、芸文協会員など約六十名の参加者のもと能村会長の進行でスタートした。

山本氏：行政は芸術・文化に多くの市民に関わって欲しいと考え、街回遊展や芳澤ガーデンギャラリー、木内ギャラリーなどが出来た。行政は、民間主体の文化振興ビジョンの進行を希望しているのでは。

上野氏：市川市の活動は大変素晴らしいと思っている。流山市は行政指導の文化活動である。色々、参考にしたい。

能村会長：行政指導が良いのか、民間主体が良いのかは意見の分かれるところ。市川市は民間主体で独立し進んできたが、活動にメリット求める声もあり現実には難しい処もあるが、市川市の文化振興を担う意識をもって芸文協加盟団としての活動を広げられたらと思う。

など、興味深い提言や参加者との意見交換もあり、地域や行政、関係団体とともに明確な目標や情報発信すること、人をコーディネートし、マネージメントすることの必要性など様々な事が浮き彫りとなった。二十年前に策定された文化振興ビジョンが新たに見直されようとしている今、更なる芸術文化活動の展開と重要性を改めて考えてみる良い機会となった。



市川市花道協会

この度、第32回市川市芸術文化集會に、市川市花道協会の代表の一員として初めて参加させていただきました。市川市の様々な芸術文化が集うこの華やかな舞台で、日頃の活動の成果を発表できる喜びを深く感じています。華道は、植物に命を吹き込み、空間に美を創造する日本の伝統文化であり、その精神性と技術は無形文化遺産にも登録されています。この尊い文化を多くの方に伝えるため、今回の集會に臨みました。

集會のテーマ「夢」に寄せて、使われた花材の生命力、一輪の花、一本の枝にも日本の美しい四季や限られた空間の中で自然の美を凝縮し、見る人の心に静けさと感動を与えることができるのが華道の魅力です。この華道の魅力をご来場の方々に感じていただけたなら幸いです。

また集會には、俳句、芸能、音楽、舞踊、パネルディスカッションなど多岐にわたる分野の団体が参加されており、文化継承に携わる熱意、それぞれの芸術が持つ情熱と深さに触れ、大変刺激を受けました。市川市の芸術文化の層の厚さを象徴していると感じました。

この集會を通じて、華道という無形文化遺産を未来に繋ぐという使命感を改めて強くいたしました。今回の経験を糧に、日本の伝統文化である「いけばな」の普及と、地域の芸術文化の発展に貢献してまいります。このような素晴らしい発表の場を設けてくださった関係者の皆様、心より感謝申し上げます。



市川市交響楽団協会

今年の市響はスケジューールなどの関係で文化集會の公演には参加しませんでした。2日間の文化集會の中で特に記憶に残ったのは「行徳の神輿文化と祭り」の講演と映像です。50年以上行徳と市川に住んでいて初めて聞く事柄の多さにびっくりし、同時に納得もしたものです。

忙しい毎日が通り過ぎるだけの日々で、忘れがちな昔ながらの物事を、今落ち着いて振り返ることは大事なことだと感じました。

市川民話の会

文化祭での装道の着物ショーはすばらしい企画で、次々と展開も早く、若い女性の参加は華やかで振袖の洋装への変身は見事でした。

長唄の会の子ども三味線は圧巻で、バチさばきも堂に入っていました。子供の参加は他にはないプログラムでうれしかったです。舞台出演のみならずご準備・演出それぞれに工夫があり、良い文化祭になったとおもいます。

輪の輪工芸美術会

市川市駅前ミュージアムのイベントが八月に開催され輪の輪工芸美術会では協力団体として参加、また十一月の本展「輪の輪アートフェス」は三つのイベントを同時開催するため所用雑多で今回の九月文化集會は不参加しました。

文化集會の会期中に全日警ホール展示室に足を運びましたところ、ライトを落とした会場正面の掛け軸が目にとまりました。日頃からイベントのテーマは、当事者以外に告知する重要な意思表示と考えていますので掛け軸の「夢」の一文字はとても印象深いものでした。

市川市合唱連盟

市川市合唱連盟からは、『やさしい名曲を歌う会』と『ハミングバード』の2つの団体が参加致しました。

私たちハミングバードは、「心に響く美しいハーモニーを奏でる」ことを目標に活動しています。今回は、ジブリ曲の中から「さよならの夏」「コクリコ坂から」、「カントリー・ロード」、フランス民謡の「アビニヨンの橋で」、全曲アカペラで演奏しました。春から暑い日が長く続きましたが、体調に注意しながら月2〜3回集まり練習を重ねる中、少しずつ歌声がまとまってゆき、発表の日を迎えることができました。

当日会場には多くの方が来場され関心の高さに驚き緊張感が高まりましたが、お客様の笑顔や拍手に助けられ無事演奏することができました。お客様から「声がとても綺麗で聴き心地がよく音楽に惹き込まれた」との感想を頂き、大変嬉しく思いました。このような貴重な催しに参加する機会を頂き心より感謝致します。



市川市洋舞踊協会

今年、市川市洋舞踊協会に新しく2団体が加盟し、今回はその2団体を含む計4団体が参加致しました。

・NO DANCE NO LIFE

「オールディーズメドレー」

「イサドラ・ダンスカン国際学校日本

「ブラームスワルツ集 愛の諸相より」

母 魚座の夢 激情」

すみれバレエクラシック

「ヴァリエーション集」 フェアリー

ドールのヴァ・ニリチのヴァ・スワニルダ

のVA他

・横井亜紀バレエスクール

「眠れる森の美女」より 宝石の踊り

シアターダンス・モダンダンス・クラシックバレエ等、それぞれの団体が特徴を發揮し発表する事により、お客様にも喜んで頂けた事と思えます。



市川オペラ振興会

この度は「夢」がテーマということで、皆さまがよくご存じでいらっしやいます日本の名曲「中国地方の子守り唄」「霧と話し」他、オペラ「ジャンニ・スキッキ」より「私のお父さん」をお届けいたしました。また、皆様にはあまりお聴きいただく機会が少ないイタリアの作曲家スキューラの「夢」やフランスの作曲家フォーレの「夢のあとに」をお届けさせていただきました。

「夢」にも様々な「夢」があり、それぞれの曲の世界をお届けさせていただきます、お客さまからの温かい拍手にも支えられ無事公演終了となりました。

市川オペラ振興会は1980年に設立され、今年で45周年を迎えました。「市川で本物のオペラを上演したい」との思いで、一流のアーティストとスタッフを揃え、イタリアオペラを中心に意欲的に活動してまいりました。

これからも多くの皆様に、私達の歌で想いを伝えられたら...と思います。



市川市俳句協会

①文化の広場・展示
今回の文化集会のテーマ「夢」を兼題として、市川市俳句協会の役員による俳句競争をおこない、短冊として展示した。

火と水とあとは判らず夢はじめ

能村研三 会長

これまでもこれからも句とちちろ鳴く

加藤峰子 副会長

袋ごと夢を見てみし青林檎

谷口摩耶 副会長

秋麗や木にも石にも神やどり

栗原公子 副会長

オオタニの三振の夢覚めて秋

町山公孝 副会長

櫛や小さき夢の二つ三つ

本池美佐子 会計

国宝の不在の古刹の穴

埴誠一郎 監査

海嘯の遠鳴るころや鯨来る

栗坪和子 幹事

月今宵忘れし夢の浮かびけり

澤田秀紀 幹事

②第2展示室・展示

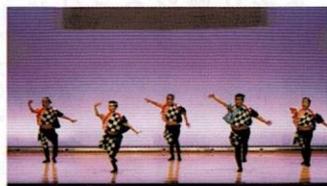
里見公園にはこれまで、市川市俳句協会の前会長である伊藤白潮の句碑があったが、これに並ぶ形で今年5月、能村研三句碑が建立されたので市川市俳句協会の歴代会長の句碑が並び立つことになった。伊藤白潮、能村研三の句碑の写真パネルと俳人紹介のパネルとを展示した。



市川市芸能協会

私たち市川市芸能協会は、幅広い分野の芸能文化を通じて世代間交流や地域コミュニティーションを目指して日々活動を続けています。

市川市芸能協会は、市川カラオケ連合会（カラオケ）、八幡囃子保存会（お囃子）、八幡下町ゆるづる太鼓（和太鼓）、八幡下町はづき会（新舞踊）、千翠会（創作日舞）、光江会（かつぼれ）、はなみづき会（銭太鼓）、大正琴錦輝宴会（大正琴）で構成されています。今回は、市川カラオケ連合会と光江会が参加させて頂きました。日頃の発表の場とは違って、多くの文化団体の皆様の活動を知る機会を頂き、感動するともに、私たちが高まりました。加えて葛飾八幡宮の神楽殿でも演じることができ感謝しております。これからも、芸能文化の発展に微力ながら協力していきたいと思っております。



装道礼法きもの学院 千葉県認可連盟市川支部

第三十二回芸術文化集会のテーマは「夢」でした。

装道礼法きもの学院では、母から子に、子から孫へ、代々受け継がれていくきもの、きもの成り立ち【反物マジック】と、【花結びによる和と洋の夢のコラボレーション】と題してきものショーを行いました。きものは、一枚の布から直線裁断され、直線で縫い上げます。きものはハーフデザインと言われ、お一人お一人の装い方、着こなしによってデザインが完成されます。そして、一枚の布に戻して縫いなおし、代々受け継がれていきます。

まさに「反物マジック」です。

モデルさんに、水仙・薔薇・朝顔・ハイビスカスの花を結び披露した後、きものをドレス風に装ったお嬢さんが登場。舞台上で和ドレスから振り袖姿に変身しました。美容姿という道具を使っただけであらじめ帯結びを作っておきますと、短時間で、一人でも装うことができます。

ほんの一瞬でも皆様に【夢】をお届けできましたでしょうか。



宗 左近・蕊の会

今回の市川市芸術文化集会の展示についてどのような企画が良いか思案していたおりに、市川市俳句協会から里見公園内の詩碑、句碑を合同で紹介してみようという提案をいただきました。令和七年五月末に当協議会会長であり、市川市俳句協会会長も務められている能村研三氏の句碑が宗左近詩碑の隣に建立されました。その除幕式に参列したこともあり、合同展示する案は、とても良い機会だと快諾させていただきました。

展示に合わせて市川市俳句協会のご協力のもと、蕊の会制作の里見公園マップをもとに能村研三句碑を加筆したパネルを掲示し、同時にマップ改訂版を印刷し多くの方々へ配布することができました。

展示室内では伊藤白潮、能村研三、宗左近という市川市を代表する文化人の句碑詩碑が並ぶ様子を来場者に紹介し、関心を持ってもらいました。これを機に園内から江戸川遠景を眺めながら、俳人、詩人に想いを馳せてほしいと願っています。



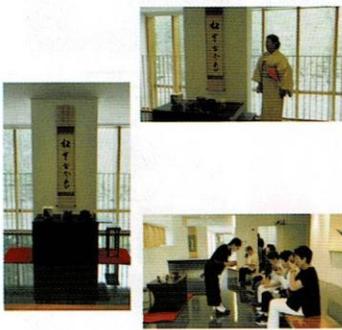
和心会 (紫翠庵)

今回は開始時間午前11時からお客様が大勢、お越しになりました。干菓子と一服の薄茶を楽しんで頂きました。今でも満面の笑みと和やかな空気感で温かく包まれた事を感じています。「夢」は「生死」に関わる重いテーマでした。

周囲を見回して、昭和100年、戦後80年になっても、又々、枯渇しがちな状況下に誘われ、勿論、文化芸術の危機も感じます。

今回は、この状況に意気消沈しない萎縮しない様に、大勢の皆様の声掛けし輪を抜け、ご来席の皆様潤いと希望をもたらし幽玄雅趣ある風情に心掛けました。「生きていく」って素晴らしいという事を伝えていけたらと和やかにの願いを一碗に込めて、「ようこそ どうぞ いかがですか」と喚し合い一会を楽しめたら本望です。

【会記】
軸 「松無古今色」 花入 籠
花 季ノモノ 香合 鶴仙人 青貝細工
棚 清風棚 釜 筒
水指 花車絵 薄茶器 雪月花時絵
茶杓 銘 老松 茶碗 花三島
干菓子(二種類)二人静
大阪万博の金平糖



行徳郷土文化懇話会

「行徳の神輿文化と祭礼」一昨年、市川市によりまして「行徳の神輿文化と祭礼」が無形民俗文化財に指定されました。行徳には寺社が多く、町には彫刻師や塗師などの職人が多く住み、やがてその職人の技を活かして明治〜平成には、全国の江戸神輿約四千基の半分が行徳生まれという神輿づくりの町・行徳となりました。神輿の隆盛は、芸術性の高い神輿を生み、各神社や町内ではそれを所持することが誇りとなりました。

また行徳は、神輿が独特に採まれる町としても知られ、住民は代々祭が大好きです。祭礼は、ご神体が乗られた輿を氏子たちが担いで町を巡幸することで、神聖な神事です。行徳は、現在でも神輿づくりと神輿採み、そして神事を忠実に守る祭礼が引き継がれています。この講演を機に、無形民俗文化財「行徳の神輿文化と祭礼」が市川市の貴重な文化であり、後世にいつまでも残すべき財産であることを、是非皆様にご理解いただければと願っております。



市川市邦楽連盟

初めまして、令和七年より芸文協に加入させて頂きました市川市邦楽連盟と申します。九月の芸文祭にも初めて参加させて頂きました。

私たちは八月の夏休み期間に宮田小学校にて開催した放課後三味線体験教室に参加された生徒のうち、高学年(中学生のメンバー)を中心に「さくら」「千本桜」を舞台演奏いたしました。

体験教室の間はマイペースにお稽古していた生徒たちも人前で発表するとなると練習に真剣さが増し、お陰様で本番もとても息の合った演奏をしてくれました。舞台発表という貴重な機会を頂きありがとうございました。ほかの団体の皆さまからの温かい声援も嬉しかったです。

舞台発表の後は葛飾八幡宮の神楽殿にて、「俄獅子」という曲を演奏させて頂きました。こちらも沢山のお客様が見物に来て下さり、光栄な機会をありがとうございました。

発表の合間には全日警ホール二階ロビーにて献茶を頂きながらお軸や華道作品を拝見し、緊張の一日でしたが心を整えることが出来ました。どうぞ本年もよろしくお願い致します。



市川市芸術文化団体協議会

加盟団体紹介



市川市花道協会
いけばなを愛する各派の盛りの地。いけばな展、日帰り研修旅行、新年親睦会などをを通じて、いけばなの楽しみを大切にしていきます。花道は同じとせん、入会の方大歓迎です。

市川市花道協会
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

市川交響楽団協会
市川交響楽団協会(財団)は、市民による交響楽団の発展を目的として、市民の音楽活動の振興を図ります。市民交響楽団の活動の促進を図ります。

市川交響楽団協会
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

市川民話の会
民話を通して「ふるさと」の文化を継承し、市民の文化活動の振興を図ります。民話の伝承と創作の活動を推進します。

市川民話の会
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

市川市合唱連盟
市民の歌声でまちを盛り上げ、市民の文化活動の振興を図ります。合唱の普及と発展を推進します。

市川市合唱連盟
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

市川市洋舞協会の会
市民の舞踊活動の振興を図ります。洋舞の普及と発展を推進します。

市川市洋舞協会の会
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

THE ICHIKAWA OPERA
市民のオペラ活動の振興を図ります。オペラの普及と発展を推進します。

THE ICHIKAWA OPERA
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

市川市俳句協会
市民の俳句活動の振興を図ります。俳句の普及と発展を推進します。

市川市俳句協会
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

市川市工芸美術協会
市民の工芸美術活動の振興を図ります。工芸美術の普及と発展を推進します。

市川市工芸美術協会
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

市川市絵画協会
市民の絵画活動の振興を図ります。絵画の普及と発展を推進します。

市川市絵画協会
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

市川市着物文化協会
市民の着物文化活動の振興を図ります。着物の普及と発展を推進します。

市川市着物文化協会
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

市川市盆栽協会
市民の盆栽活動の振興を図ります。盆栽の普及と発展を推進します。

市川市盆栽協会
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

ようこそ茶の湯の世界へ
市民の茶の湯活動の振興を図ります。茶の湯の普及と発展を推進します。

ようこそ茶の湯の世界へ
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

市川市美術展覧会
市民の美術展覧会活動の振興を図ります。美術展覧会の普及と発展を推進します。

市川市美術展覧会
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

行徳郷土文化懇話会
市民の郷土文化活動の振興を図ります。郷土文化の普及と発展を推進します。

行徳郷土文化懇話会
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

市川市邦楽連盟
市民の邦楽活動の振興を図ります。邦楽の普及と発展を推進します。

市川市邦楽連盟
〒122-0801 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方
TEL 047-334-7832

市川市の観光名所で芸術文化を楽しみませんか…
天空の文化祭・2026
市川市芸術文化団体協議会加盟団体による展示・公演
令和8年2月13日(金)~15日(日)
会場 ザ・タワーズウェスト45階 アイ・リンクタウン展望施設
開催決定!

研修バスで富津市と交流
芸文協副会長 星 乘昭

令和七年十一月二十六日、協議会員二十三名のご参加をいただき、市川市の研修バスで出発いただきました。ドライブインで休憩した後、富津市文化協会会長さん初め、役員や会員の皆様のお出迎えを受けて、第一会議室にて、交流会が開催されました。話し合われた内容は、

- ① 会員の高齢化、固定化対策、若い人を取り込むための方法、
- ② 小中学校への講師派遣問題、文科省、スポーツ庁、文化庁の対策、
- ③ 部活動に対しての地域展開について。

その中で、市川市邦楽連盟が、小学生に三味線を教え、その成果があったこと。運動部は、わりと講師を派遣しやすいが、文化団体に講師依頼が来た時はどうなるか、まだ採まれている。

④ 富津市では公的な施設を文化協会が使用するときは全額免除となります。文化団体所属の団体が主催する事業は、本部に申請すれば、使用料が免除となります。ですから補助金はいただかないけれども、この恩恵は大きいのです。今回皆様をお迎えするにあたって、この会議室の使用料は免除であり、この後見学する富津埋立記念館の入場料も申請する事で免除となりました。

⑤ 芸術祭の横(部門別)の活動、連携に関する事。

⑥ 市所有バスの借用規定は、年に二回以内で八時から五時。秋は使用希望者が多く、抽選となります。

⑦ 市民会館、公民館などの借用は、他に跨る、広域行政で行う必要が、あるのではないかと。

以上、有意義な交流会の後、美味しい昼食会となり、午後は富津埋立記念館を見学し、富津公園展望塔から浦賀水道を望む富津岬に行き、大海原に感動して帰りにつきました。



編集後記

今年度の芸術文化集会は、新しく市川市邦楽連盟の加盟により、多彩な文化集会となった。また、葛飾八幡宮の神楽殿とのコラボレーションもあり、屋外での楽しみ方の再発見でもあった。今後も、それぞれの団体の個性を尊重しつつ、加盟団体全体の協力のもと、観客も楽しみ、参加者も楽しめる文化集会になればと思う。(事務局)

新しい芸文協のホームページです!